

＜考え方＞＜必須＞＜標準＞＜推奨＞＜例示＞に記載の内容のうち、明らかな誤字・脱字については、統合版資料において修正している。

【設計編】正誤表

章	節	項	分類	改定年度	誤	正
目次	-	-	-	令和3年10月	第7節 洪水吐き及びその他の放流設備の設計定	→ 第7節 洪水吐き及びその他の放流設備の設計
2	4	4.6.3	＜参考となる資料＞	令和3年10月	クレストゲートの事例としては、下記の資料2)、3) 及び4) が参考となる。	→ クレストゲートの事例としては、下記の資料2) が参考となる。
2	5	5.3.2	＜考え方＞	令和3年10月	1.修正震度法の使適用方法と安定計算	→ 1.修正震度法の適用方法と安定計算
2	5	5.5	＜例示＞	令和3年10月	表面側点は堤体天端に10～15点ぐらいを配置し・・・	→ 表面測点は堤体天端に10～15点ぐらいを配置し・・・
2	6	6.7.1	＜例示＞	令和3年10月	$d = \frac{nH - fV}{2\sqrt{1 + m^2\tau_0}l}$	$d = \frac{nH - fV}{2\sqrt{1 + m^2\tau_0}l}$
2	9	9.8	＜考え方＞	令和3年10月	・・・排除するものであり、ダム形式、ダム規模、・・・	→ ・・・排除するものであり、ダム型式、ダム規模、・・・
2	11	-	＜考え方＞	令和3年10月	・・・新設ダムの場合には、上載される堤体自重や水圧により・・・	→ ・・・新設ダムの場合には、上載される堤体自重や水圧により・・・